

平成25年度 予算の考え方



平成25年度予算は、保健所開設など中核市にかかる事業や一括交付金を活用した事業を盛り込んだ、記念すべき中核市初年度予算となっています。

平成25年度予算を通じて、「いい暮らしより 楽しい暮らしを」というキャッチフレーズの下、市民サービスの「スピードアップ、パワーアップ、レベルアップ」に取り組み、市民との協働をより一層進め、「中核市・なは」として風格あるまちづくりに努めていきたいと考えています。

市政運営の基本姿勢

沖縄21世紀ビジョン基本計画と一括交付金

沖縄21世紀ビジョン基本計画に基づいて、県が自立と発展のため歩みを始めた中で、本市も4月から中核市として、新たな道を歩み始めています。中核市への移行では、標語として掲げた「スピードアップ、パワーアップ、レベルアップ」を目指し、市民サービスの向上に取り組みます。昨年度から始まった新たな沖縄振興特別推進交付金については、今年度もしっかり活用して、様々な沖縄振興と発展に資する事業を展開していきます。

ハイサイ・ハイトイ運動から始まる文化発信

伝統文化を、ウチナーのチムグクルとともに引き継ぐためにも、ウチナーグチを、より多くの市民が日常生活の中で使う必要があると考えています。ウマンチュがウチナーグチを話すウチナーをめざし、文化面からも沖縄や那覇の振興に取り組みます。

【文化振興課】

●うちなーぐち発信事業 415万円

市内の小学校、中学校の各1校と那覇市内に在住・在勤の一般市民を対象に、沖縄の芸能文化の原点である「うちなーぐち」の次世代への継承発展のため、講師を派遣し、講座及び成果発表会を開催します。

津波など大規模災害への備え

東日本大震災は、台風や地震だけでなく、津波に対しても備えることの重要性・必要性を強く認識させられました。本市の低海拔地域についても、津波に対する備えは急務でありますので、市民の安心安全と地域に貢献する施設として、津波避難ビルの建設に取り組んでいきます。また、島嶼県・沖縄で大規模災害が発生した場合に備えて、九州各県庁所在地と協定を結び、非常用食糧や飲料水の備蓄についても充実させてまいります。新総合庁舎は、県内の行政庁舎としては、初の免震構造を採用したほか、津波対策として電気室等を中階層へ配置するなど、防災拠点としての機能強化も図っています。

【総務課】

●津波避難ビル建設事業 5,997万円

若松市宮住宅跡地に避難困難者のための津波避難ビルを建設することで、万が一の際に、市民・観光客の安全を守り、また平時には、地域住民へのアンケート結果を踏まえた地域コミュニティ施設、青少年育成施設等の整備を行います。

●災害備蓄品整備事業 500万円

平成24年度の沖縄振興特別推進交付金において那覇市の人口の20分の1の3日分について整備しました。備蓄品の保存期限が5年間であることから、これら備蓄品については、5年間をかけて防災訓練や防災教育などに活用し、利用した分については毎年度、更新・補充をします。

協働から紡ぐ沖縄らしい優しい社会

これまで、職員の意識改革、市民との信頼関係の構築などにより、市民自らまちづくりに取り組む環境づくりを進めてきました。これからは、協働の仕組みの完成を目指して取り組んでいくため、銘苅庁舎の後利用として、まちづくり拠点施設の設置を目指します。

※主要事業1(16ページ)を参照ください。

風格ある観光交流都市へ

我が那覇市は、万国津梁の鐘に刻まれた銘文にある、海外交易国家・琉球のチムグクルを持って、観光交流都市の実現を目指します。

※主要事業5(23・24ページ)を参照ください。